

陳情第 5 号



(件名) 第五次和光市総合振興計画書の豪華版製本印刷中止に関する陳情

(要旨) 和光市は、今年度中に予定している第五次和光市総合振興計画の計画書製本 500 部と読本タイプ概要版 5,000 部の印刷を即刻に中止して下さい。

そして、この代替案として、4 色刷りの上記豪華版とは異なる再生紙閉じの製本と予定の電子データ版で対応して下さい。むろん、再生紙閉じ製本印刷の場合は外注委託の印刷は除外し、庁舎内コピー機か印刷機を使用しつつ、これから印刷部数も極力調整しつつの削減をお願いいたします。

(理由) まず、新型コロナウイルス問題が反映されない昨年度実施の市民意識調査費用と市民参加ワークショップ等報告書等で既にコンサルタント調査会社へ 1,026 万円の予算が投入済です。しかも、この 9 月議会で本素案のまま計画案を通過させ、このまま 500 部数の計画書と 5,000 部数の概要版を 4 色刷りの豪華版で印刷することこそ大問題である。

実は、上記投入予算の 1,026 万円以外に更にコンサルタント会社へ支払う約 800 万円の予算が今年度中の来年 3 月末までの納期予定である。この内、既に本件素案の校正費用(本文レイアウト費等)として何がしかの支払い支出は既に決定している。本件見積もり内訳が余りにも杜撰なため、800 万円の内、計画素案の校正、計画書等のデザイン費用、そして印刷代金(製版費、製本費、用紙代等)の内訳は現在不明であり、未確定要素は残る。仮に印刷部数を減らしたくらいで、支出金はそれほど変化なしでしょう。一般の発刊書籍の印刷代と電子書籍版のみの金額の差から比較すれば、ある程度の推定は可能であろう。おそらく高ランクの上質紙で 4 色刷りの印刷をするだけに、豪華製本版(概要版も含む)の印刷代金は少なく見ても 300 万円は超えるだろう。

いずれにしても、仮に豪華版製本の印刷をしなかった際、300 万円以上の印刷代金を浮かせることができるかは、今後の担当所管と本件コンサルタント調査会社との契約の見直しに掛かっている。

一方、歳出削減の件と並び、特に問題なのは、和光市体裁の悪さとなる世間体の問題である。このまま、近日中に印刷された場合、本件素案内容の通用する賞味期限は一体いつまでなのか。先月 7 月 22 日付け、当審議会による本件素案資料 6 の答申内容・記 2「新型コロナウイルス感染症の今後の状況を引き続き注視し、必要であれば、中間見直しの時期を待つことなく、計画の改定を検討すること。」と、ある。この件で担当所管へ確認すると、新型コロナウイルスの件が終息どころか、現状よりも更に悪化し続けるとなれば、早くて来年 4 月からの本件審議会の立ち上げもないと言い切れない旨の関係者からのコメントを得ている。この場合、再度コンサルタント会社に委託する予算支出は控

えるものの、パブリックコメント実施は当然必要となる旨の見解も出している。しかも、ここでは、外注印刷にはかけない再生紙閉じ製本の可能性も示唆している。いずれにしろ、最悪、本計画書が半年間での賞味期限切れとなる可能性が低くなければ、今回の計画素案を電子版と再生紙閉じの製本で納めておけば、豪華本の印刷代金は、躊躇なく来年度以降の中間見直し時に投入できよう。

むろん、この際は、当コンサルタント会社との契約の見直しと和光市サイドからの折衝が不可欠となる。この状況下だけに、当社も和光市との今後の付き合いを考慮すれば、和光市からの意向を軽視するわけにも行かなくなるため、高額な印刷代を浮かせる契約の見直しは可能であろう。仮にこの折衝を和光市が放棄することは、担当所管の無能さぶりよりも気概と志の足りなさである。

さて仮に今回、豪華本の大量印刷を実施した際、来年度か再来年度の緊急的な中間見直しの事態が急遽生じた際、尚更、予算的にも精神的にも緊急事態新素案のための豪華印刷版を印刷しずらくしよう。特に、読本タイプの概要版は、中学生にも配布されるだけに、新型コロナの要素を視野にした対応策がほとんど盛り込まれない内容となれば、極めて間抜けな本件計画書として、彼らからも揶揄されよう。しかも、「教育委員会が各学生配布を渋るかもしれない。」旨を当所管関係者が現在懸念している。むろん、和光市が今年度中ギリギリまでの粘りを見せてのウイズコロナ問題を織り込む計画の大幅修正をしていくなら多少、話は変わってくる。しかし、連合審査会の奮闘と更なるコンサルタント会社の支援を受け、僅かでも修正できたところで、予想を超えた更なる悪化のウイズコロナ時代の到来（当然に東京五輪は来る10月までに中止決定）となれば、早くて来年4月には、当計画中間見直し前倒しのため、新たな当審議会を立ち上げる必要性が生じよう。また、ギリギリ今年度一杯のウイズコロナ問題織り込みを模索する第5次朝霞市総合計画の素案をもって、来年3月完成の朝霞市当製本と和光市の豪華印刷本内容を比較された際、益々和光市の体裁としての世間体は悪くならう。ここを回避するには、近年実施済の第2次和光市図書館サービス計画のように、再生紙閉じ製本での対応をすべく、和光市は豪華印刷製本を今回は中止すべきである。賞味期限切れの悪化状況の危険性を近未来に残すとなれば、豪華印刷製本では破棄もしずらくなるため、近い将来、中間見直し前倒しの決断を気分的にも採用しずらくしよう。あくまでも、今回の本件計画は更なる悪化状況も考慮しておく短期のツナギ計画と見ておくべきである。そのための本件陳情要旨の趣旨でもある。ここは、冷静なる判断を和光市には求めたい。以上

2020年8月19日

和光市議会議長 吉田 武司 様

岡野 誠

和光市本町 31-16-1006